

作成日 1994年 3月10日

改訂日 2023年 6月14日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	パワフルドライエッカー
会社名	都インキ株式会社
住所	大阪府大阪市鶴見区放出東 1-7-13
担当部門	技術課
担当者	西澤 俊
電話番号	06-6961-0101
FAX 番号	06-6961-0303
緊急連絡先	同上
整理番号	Z-561-05

2. 危険有害性の要約

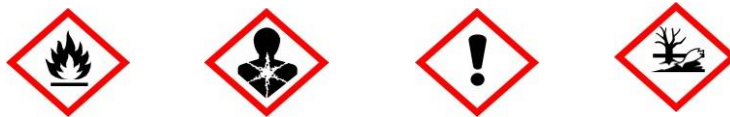
【GHS分類】

エアゾール	区分 1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2 B
生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	区分 1 A
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1 (循環器系) 区分 2 (神経系、肺吸入) 区分 3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1 (中枢神経系、肺吸入、皮膚) 区分 2 (肝臓)
誤えん有害性	区分 1
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2

* 上記で記載のない危険有害性項目は「区分に該当しない」または「分類できない」です。

ラベル要素

【絵表示】



【注意喚起語】

危険

【有害性情報】

- ・ 極めて可燃性の高いエアゾール
- ・ 高压容器：熱すると破裂のおそれ
- ・ 眼刺激
- ・ 遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・ 発がんのおそれ
- ・ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・ 臓器<循環器系>の障害
- ・ 臓器<神経系、肺吸入>の障害のおそれ
- ・ 眠気やめまいのおそれ
- ・ 長期にわたる、または、反復暴露により臓器<中枢神経系、肺吸入、皮膚>の障害
- ・ 長期にわたる、または、反復暴露により臓器<肝臓>の障害のおそれ
- ・ 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- ・ 長期継続的影響によって水生生物に毒性

【安全対策】

- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 加圧容器ですので、使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
- 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
- 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／を使用すること。
- 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- 火花を発生しない工具を使用すること。
- 保護手袋／保護眼鏡／保護面／保護衣を着用すること。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- 換気の良い所で使用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急処置】

- 火災の場合には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用すること。
- 飲み込んだ場合は、吐かせずに、直ちに医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- 衣類にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹸で洗うこと。
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- 暴露または暴露の懸念がある場合は、医師の診断／手当を受けること。
- 吸入し呼吸が困難な場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

- 子供の手の届かない所に施錠して保管すること。
- 涼しく換気の良い場所で保管すること。
- 直射日光の当たる所や温度が40℃以上になる所、錆びの発生しやすい水回りや湿気の多い所凍結する所には置かないこと。

【廃棄】

- 中身を使い切ってから廃棄する。
- 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3.組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

成分名	CAS No	含有量 (%)	PRTR法No	安衛法No	備考
2,6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール	128-37-0	8.6	207(1-232)	262	
石油系炭化水素	非公開	40~45	非該当	168	
プロパン	74-98-6	50~55	非該当	非該当	(可燃性ガス、
LPG	106-97-8		非該当	482	3種類混合)
イソブタン	75-28-5		非該当	482	

PRTR法No. : 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法) 対象化学物質の政令番号

安衛法No. : 労働安全衛生法 (安衛法) 第57条の2第1項政令指定物質の政令番号

4.応急措置

【吸入した場合】

- * 蒸気、ガスなどを吸い込んだ場合には、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動させ、安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合には、人工呼吸を行い、嘔吐物は飲み込ませないようにする。

必要に応じて医師の診断を受ける。

【皮膚に付着した場合】

- * 汚染された衣服は、素早く脱ぐ。
- * 大量の水及び石鹸又は皮膚用洗剤を使用して十分に洗い落とすこと。
- * 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には、直ちに医師の診断を受けること。

【目に入った場合】

- * 直ちに大量の清浄な流水で、15分以上洗浄する。瞼の裏まで完全に洗うこと。
- * コンタクトレンズを着用し、容易にとれる場合はコンタクトレンズをはずし、更に洗浄を続ける。
- * できるだけ速く医師の診断を受けること。

【飲み込んだ場合】

- * 揮発性液体なので、吐き出させるとかえって肺への吸引等の危険が増す。
- * 直ちに、医療措置を受ける手配をする。水でよく口の中を洗わせてもよい。
- * 但し、意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

【消化剤】

水 [×]、炭酸ガス [○]、泡 [○]、粉末 [○]、乾燥砂 [○]

【消火方法】

可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除くこと。

消火作業は、指定の消化剤を使用し、可能な限り風上から行なう。

火災の現場にエアゾール製品があると爆発する恐れがあるので、消火活動には距離を十分にとるこ水を消火に用いてはならない。

高温にさらされる製品容器には水をかけて冷却する。

消火を行う者の保護

適切な保護具（耐熱着衣、有機ガス用防毒マスク、手袋等）を着用する。

6. 漏出時の措置

【人体に対する注意事項】

作業の際には適切な保護具（保護手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、換気をよくする。

衝撃、静電気にて火花が発生しないような、材質の用具を用いて回収する。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

着火した場合に備えて、消火用機材を準備する。

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をすること。

【環境に対する注意事項】

流出した製品が河川等に排出され、環境へ流出しないように注意する。

【除去方法】

回収後の少量の残留分は、土砂（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。

少量の場合、おがくず、ウエス、砂等を用いて吸着させて、密閉できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取り扱い】

- * 温度が40℃以上の所や火気のある所では取扱わないこと。
- * 長時間噴射させないこと。
- * 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
- * 容器は衝撃や落下又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
- * 容器は使用の都度キャップをかぶせること。

【局所排気・全体排気】

- * 局所排気内、または全体換気のある場所で取扱い、蒸気が滞留しないようにする。

【安全取り扱い注意事項】

- * 保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

【適切な保管条件】

- * 直射日光の当たるところや温度が40℃以上になる所に保管しないこと。
- * 水分や湿気の多い所に保管すると容器を腐食させて爆発の恐れがあるので注意すること。
- * 通気の良い場所に保管すること。
- * 火気、熱源から遠ざけて保管すること。
- * 子供の手の届かない所に、施錠して保管すること。

8.曝露防止及び保護措置

【設備対策】

- * 取扱設備は防爆型を使用する。
- * 排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
- * 取扱場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とする。
- * 局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるような設備とする。
- * タンク内部の密閉場所で作業する場合には密閉場所、特に底部まで十分に排気出来る装置を取り付けること。

【保護具】

- * 呼吸器用の保護具 : 防毒マスク(有機ガス用)を使用する。密閉された場所では、送気マスクを着用する。
- * 目の保護具 : 保護眼鏡を着用する。
- * 皮膚の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。
- * その他 : 導電性安全靴を着用する。

【許容濃度】

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会	許容濃度 ACGIH(TLV)
2,6-ジエタンシヤリブチル-4-クレゾール	規定なし	データなし	2 mg/m ³
石油系炭化水素	規定なし	3 mg/m ³ (鉱油ミストとして)	5 mg/m ³ (鉱油ミストとして)
LPG	フロン	規定なし	1000 ppm
	ルマルタン	規定なし	500 ppm
	イソタン	規定なし	500 ppm

9.物理的及び化学的性質

【物理的状态】

状態 液体：〔○〕(エアゾール包装で容器内部は、液体状態)
 気体：〔○〕(解放時)
 固体：固体状〔 〕、粉末状〔 〕、ペースト状〔 〕

色 無色透明

臭い 溶剤臭

pH 該当しない

沸点	原液	データなし	ガス	データなし
沸点範囲	原液	データなし	ガス	-42～36 °C
融点	原液	データなし	ガス	データなし
引火点	原液	119 °C	ガス	-104～<-40 °C
発火点	原液	420°C	ガス	405 °C
爆発限界	(下限)		(上限)	
	原液	1.0 ~	7.0	vol%
	ガス	1.8 ~	8.5	vol%
蒸気圧	原液	データなし	ガス	0.278～1.275MPa (2 1°C)
蒸気密度(空気=1)	原液	データなし	ガス	1.895～2.538kg/m ³ (0.1MPa,15.6°C)
密度(比重)	原液	0.85 (20°C)	ガス	0.55～0.56 (20°C)
溶解性	原液	水に不溶	ガス	データなし
オクタン/ル水分配係数	原液	データなし	ガス	データなし
分解温度	原液	データなし	ガス	データなし
その他のデータ	原液	データなし	ガス	データなし

10.安定性及び反応性

【安定性】

- * 通常の条件では安定

【反応性】

- * 強酸化剤と接触すると激しく反応する。

【混触危険物質】

- * 強酸化剤

【危険有害な分解生成物】

- * 不完全燃焼により、CO・NOXなどが考えられる。

【その他の反応性情報】

- * 常用温度(20°C)では缶内圧は、約0.45MPaであるが、40°C以上になると爆発の恐れがある。【

1 1 .有害性情報

物質名		急性毒性(LD50、LC50等)				
		経口	経皮	吸入(気体)	吸入(蒸気)	吸入(粉塵、ミスト)
2.6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール		区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
石油系炭化水素		区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	区分4 2.18 mg/L
LPG	プロパン	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
	ルマルタン	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
	イソタン	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
物質名		皮膚腐食/刺激性	眼損傷/刺激	呼吸器感作性	皮膚感作性	生殖細胞変異原性
2.6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール		区分に該当しない	区分2B	分類できない	分類できない	分類できない
石油系炭化水素		区分3	区分2B	分類できない	区分に該当しない	区分2
LPG	プロパン	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
	ルマルタン	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない
	イソタン	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない

物質名		発がん性	生殖毒性	特定標的臓器(単回)
2.6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール		区分に該当しない	区分2	区分1(神経系)
石油系炭化水素		区分1A	分類できない	区分2(肺)
LPG	プロパン	分類できない	分類できない	区分3(麻酔作用)
	ルマルタン	分類できない	分類できない	区分3(麻酔作用)
	イソタン	分類できない	分類できない	区分1(循環器系)、区分3(麻酔作用)

物質名		特定標的臓器(反復)	誤えん有害性
2.6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール		区分2(肺、肝臓)	分類できない
石油系炭化水素		区分1(肺、皮膚)	区分1
LPG	プロパン	分類できない	区分に該当しない
	ルマルタン	区分1(中枢神経系)	区分に該当しない
	イソタン	分類できない	区分に該当しない

1 2 .環境影響情報

【成分の水性環境有害性情報】

物質名		水生環境有害性 短期(急性)	水生環境有害性 長期(慢性)	オゾン層への有害性
2.6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール		区分1	区分1	分類できない
石油系炭化水素		分類できない	分類できない	分類できない
LPG	プロパン	分類できない	分類できない	分類できない
	ルマルタン	分類できない	分類できない	分類できない
	イソタン	分類できない	分類できない	分類できない

1 3 .廃棄上の注意

【残余廃棄物】

- * 中身を使い切ってから廃棄する。
- * 容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さないこと。
- * 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

【汚染容器・包装】

- * 内容物や容器を廃棄する際は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄業者に業務委託して下さい。

1 4 .輸送上の注意

【共通】

- * 取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。
- * 運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にする。

【陸上輸送】

- * 消防法、労働安全衛生法、ほか法令の輸送について定めるところに従うこと。

【海上輸送】

- * 船舶安全法に定めるところに従う。

【航空輸送】

* 航空法に定めるところに従う。

【国際規制】

国連番号 : 1950 国連分類 : クラス 2.1 (高圧ガス)
指針番号 : 126

1.5.適用法令

高圧ガス保安法 : エアゾールの為、非該当
消防法 : 第4類 第三石油類 非水溶性液体
毒物及び劇物取締法 : 混合物の為、非該当
労働安全衛生法 : 危険物 (引火性の物、可燃性ガス)
表示/通知対象物質含有
有機溶剤中毒予防規則 (非該当)
化学物質排出把握管理促進法 : 第1種指定化学物質 : 2,6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール (8.6%)
船舶安全法 : 危険物 (高圧ガス)
航空法 : 危険物 (高圧ガス)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令

1.6.その他の情報 (引用文献)

- * 化学物質等安全データシート (MSDS)
- * GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7252
- * GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) JIS Z 7253
- * 産業中毒便覧 (医歯薬出版株式会社)
- * 14705の化学薬品 (化学工業日報社)
- * 改訂第2版 労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ (化学工業日報社)
- * 改訂第2版 緊急時応急措置指針 (日本規格協会)
- * 危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)
- * GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)
- * GHS対応 SDS・ラベル作成ガイドブック 改訂第2版 (日本塗料工業会)
- * GHS対応版ラベル・MSDS作成マニュアル (日本オートケミカル工業会)
- * 溶剤ポケットブック (オーム社)

問合せ先

担当部門 当社 技術課
電話番号 06-6961-0101
FAX 番号 06-6961-0303
メールアドレス nishizawa@miyakoink.co.jp

* 「安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や、新しい知見により改訂されることがあります。
本製品を取扱う場合は、記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じて下さい。本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。